

肝心なことは目には見えない（2）

最初見たときは、自分の大事な「あの花」も目の前の沢山のバラと同じにしか見えなかったのだけれど、キツネにいわれて庭園に来て、改めてバラを見てみると、大事な「あの花」と大きく違うことに気付きます。そして、庭園から戻ってきた王子様に、キツネは秘密の言葉を伝えます。「簡単なことなんだ。ものは心で見ると。肝心なことは目には見えない。」また、こうも付け加えます。「きみがバラのために費やした時間の分だけ、バラはきみにとって大事なんだ。」

「心で見ると」とはどういうことなのでしょう。それは多分、「心で感じる」ということであり、「心で感じる」ことができるかどうかは、キツネが星の王子様に「バラのために費やした時間の分だけ、バラはきみにとって大事なんだ」といったように、感じようとする対象の為にどの位の時間を費やしたか、どの位深く関わったかということによって違って来るのだと思います。

目で見える世界は、論理的で、客観的、物質的世界です。これに対して、心で見える世界は主観的で精神的な世界といえるでしょう。

私たちは、日常の中で、専門家と称する人の論理的な説明を聞くと、ついそれが正しいものと受け止めてしまう傾向がありますが、自分が深く関わっていることであれば、理屈ではいい返せなくとも、専門家の説明に対して「それは違うのではないかと感じる」と感じることがあると思います。それは心の目で本質を捉えているからに外なりません。

今自分が目にしている現象は、現実そのものではありませんが、その現象を引き起こしている本質的な問題は、ただ黙って立っているだけでは見ることも感じることもできません。その本質的な問題に迫るためには、目をよく見開いてモノを見、耳をそばだてて情報を集め、頭の柔軟体操をして脳みそを柔らかくし、平衡感覚と感性を養う、そうした努力が必要であり、そうしない限り、心の目が開くことも、物事の本質に迫ることも難しいと思います。

星の王子様が、「あの花」が他のバラたちとの違いに気付いたのは、星の王子様が「あの花」のために沢山の時間を費やしたからではないでしょうか。

ある問題について、専門家が大丈夫と知っているから大丈夫と思っている、
そう思うことで思考停止してしまっていては、その問題のために自分が貴重な
時間を費やしていることにはなりません。そしてそのままでは、多分何時まで
たっても「肝心なことは目には見えない」状態が続くことになるでしょう。

今回の福島第一原発事故を目の当たりにして、私たちは「肝心なことを見て
いなかった」ことを痛感した筈です。でも、「肝心なことが見えていなかった」
と気付いたことは重要です。

考えることを人任せにせず、自分の感性を磨く努力を怠るべきではありません。
見えるものだけに囚われ、一喜一憂しているだけでは、いずれまた、再び
臍を噛むことになるでしょう。(塾頭 吉田 洋一)